

# 2019年度決算

## JT Group CFO 見浪 直博

※本資料に含まれる数値は各事業の業績を分かりやすく説明するために使用しており、財務諸表の数値と異なる場合があります。  
※用語の定義については、スライド14、15に記載しております。

## 将来に関する記述等についてのご注意

本資料には、当社又は当社グループの業績に関連して将来に関する記述を含んでおります。かかる将来に関する記述は、「考えています」「見込んでいます」「予期しています」「予想しています」「予見しています」「計画」「戦略」「可能性」等の語句や、将来の事業活動、業績、事象又は条件を表す同様の語句を含むことがあります。将来に関する記述は、現在入手できる情報に基づく経営者の判断、予測、期待、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。これらの記述ないし事実又は前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もなく、当社としてその実現を約束する趣旨のものでもありません。また、かかる将来に関する記述は、さまざまなリスクや不確実性に晒されており、実際の業績は、将来に関する記述における見込みと大きく異なる場合があります。その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます（なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません）。

- (1) 喫煙に関する健康上の懸念の増大
- (2) たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更（増税、たばこ製品の販売、国産葉たばこの買入れ義務、包装、ラベル、マーケティング及び使用に関する政府の規制等）、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等
- (3) 国内外の訴訟の動向
- (4) 国内たばこ事業、海外たばこ事業以外へ多角化する当社の能力
- (5) 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力
- (6) 市場における他社との競争激化、お客様の嗜好・ニーズの変化及び需要の減少
- (7) 買収やビジネスの多角化に伴う影響
- (8) 国内外の経済状況
- (9) 為替変動及び原材料費の変動
- (10) 自然災害及び不測の事態等

## (このスライドは空白です)

### 全社 (実績)

## 2019年度実績

(億円)

#### 為替一定調整後営業利益：対前年0.9%増

- たばこ事業（国内+海外）トータルでの成長が医薬の減少を上回る

#### 調整後営業利益

- 為替の不利な影響により減益

#### 営業利益・当期利益

- (+) 医薬の抗HIV薬ライセンス契約解消に係る一時金収入
- (-) 調整後営業利益の減少
- (-) 買収に係る償却費の増加
- (-) 海外たばこの事業運営体制の変革に係る施策関連費用の計上
- (-) 不動産売却益の減少
- (-) 金融費用の増加

#### FCF

- 事業の安定したキャッシュ創出能力に加え一時的な収入を計上
- 前年度の買収に伴う支出がなくなったことにより大幅改善

	2019年 1-12月	対前年	対Q3見込
<b>財務報告ベース</b>			
売上収益	21,756	▲1.8%	+56
調整後営業利益	5,159	▲13.4%	▲21
営業利益	5,024	▲11.1%	▲26
当期利益	3,482	▲9.7%	+82
FCF	4,042	+2,986億円	+342

#### Q3見込からの増減要因

##### 調整後営業利益：

- (-) 国内たばこにおける低温加熱向けカプセル製造機械の減損
- (+) 海外たばこの想定を上回る数量実績
- (+) 医薬の導出契約に伴う一時金受領および経費減少

##### 当期利益：

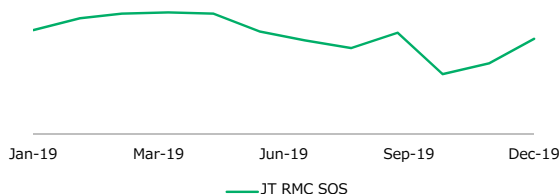
- (+) 税負担率がQ3見込を下回る

## 販売数量実績

RRPにおける製品展開が進展する一方、RMCの低価格帯における競争激化の影響を受け、トータルシェアは対前年で減少

### RMC

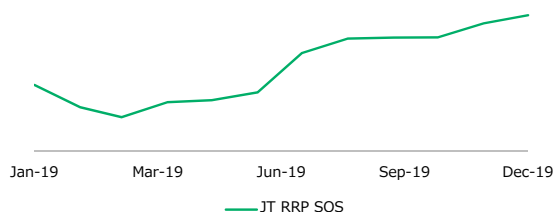
- JT RMC販売数量：755億本（対前年：▲7.9%）
  - RMC総需要減（趨勢減、RRP市場拡大、定改影響）
  - シェアの減少
- カテゴリー内シェア：60.4%（対前年：▲1.0ppt）
  - 低価格帯における競争激化の影響
    - 足元では12月上市のキャメルLCでダウントレーディングを捕捉



© Copyright JT 2020

### RRP

- JT RRP販売数量：33億本相当（対前年：+5億本）
  - 新製品の上市・拡販に伴い数量増
- カテゴリー内シェア\*：約9%（対前年：約+2ppt）
  - 製品ポートフォリオの拡充に伴いシェア向上
  - RRP市場占有率：約23%



\*RRPカテゴリー内シェア：実需ベース 5

## 財務実績

### AOP増減要因

#### 【プラス要因】

- RMCプライシング効果
- RRP販売数量増加

#### 【マイナス要因】

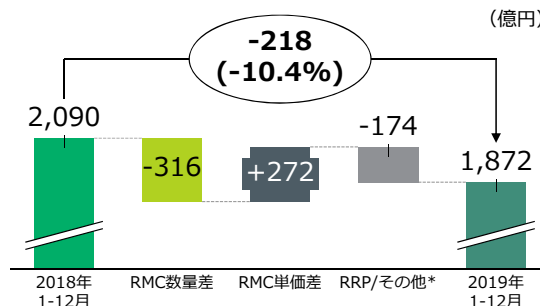
- RMC販売数量減少
- RRPデバイス販売台数減少
- 低温加熱向けカプセル製造機械の減損

(億円)

	2019年 1-12月	対前年
自社たばこ製品 売上収益	5,689	▲2.3%
調整後営業利益	1,872	▲10.4%

### 調整後営業利益

(億円)



\*製造コスト、販売費、一般管理費を含む

© Copyright JT 2020

6

## 財務実績（財務報告ベース）

（億円）

### AOP増減要因

- 力強いプライシング効果および買収による数量効果をコストおよび為替影響が上回る
  - 主にIRR、RUBの下落が影響
  - 加えて、ドル円が不利に作用

財務報告ベース	2019年 1-12月	対前年
自社たばこ製品 売上収益	12,530	+0.2%
調整後営業利益	3,408	▲11.4%

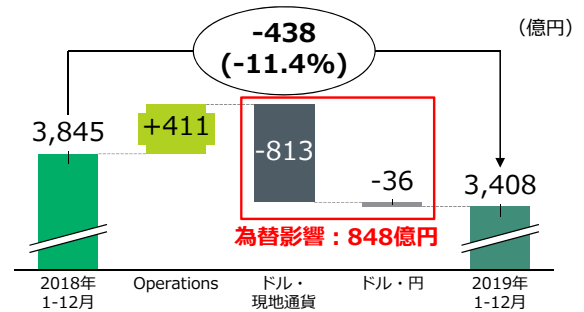
### 為替レート変化率（対前年）

	2018年 1-12月	2019年 1-12月	変化率
USD/EUR	0.85	0.89	5.2%安
USD/GBP	0.75	0.78	4.4%安
USD/IRR	61,649	104,046	40.7%安
USD/RUB	62.68	64.74	3.2%安
USD/TRY	4.82	5.67	14.9%安
USD/JPY	110.44	109.03	1.3%高

EUR/IRR換算から、表のUSD/IRRを算出

© Copyright JT 2020

### 調整後営業利益（財務報告ベース）



7

## 財務実績

### 医薬事業

- 抗HIV薬6品の国内におけるライセンス契約解消の影響および海外ロイヤリティ収入の減少等により、売上収益・調整後営業利益ともに減少

### 加工食品事業

- 売上収益は、ステーブル商品の販売は伸長したものの、その他商品の販売減少により減収
- 調整後営業利益は、価格改定効果に加え、商品構成の改善およびコスト低減等により増益

（億円）

	2019年 1-12月	対前年
売上収益	885	▲255
調整後営業利益	159	▲125

（億円）

	2019年 1-12月	対前年
売上収益	1,586	▲28
調整後営業利益	54	+13

© Copyright JT 2020

8

## 2020年度見込

### 為替一定調整後営業利益：前年同水準を見込む

- たばこ事業トータルで約3%成長
  - 国内たばこ：RMC数量減を主因に減少
  - 海外たばこ：利益成長を引き続きプライシングが牽引

(億円)

### 営業利益

- (+) 海外たばこの事業運営体制の変革に係る施策関連費用の剥落
- (+) 本社ビル売却益
- (-) 為替のネガティブな影響による調整後営業利益の減少
- (-) 医薬の抗HIV薬ライセンス契約解消に係る一時金収入の剥落

### 当期利益

- 営業利益の減少に加え、税負担率の上昇により減益

### FCF

- 引き続き安定した事業のキャッシュ創出能力を見込む

	2020年 見込	対前年
<b>財務報告ベース</b>		
売上収益	21,800	+0.2%
調整後営業利益	5,030	▲2.5%
営業利益	4,710	▲6.2%
当期利益	3,050	▲12.4%
FCF	3,700	▲342億円

## 数量・財務見込

### AOP増減要因

#### 【プラス要因】

- RMCプライシング効果
  - 20年10月値上げを一定の前提で織り込み
- RRP販売数量増加
- 低温加熱向けカプセル製造機械減損影響の剥落

#### 【マイナス要因】

- RMC販売数量減少
- RRP関連収益減少
- RRP販促・R&D投資強化
  - 数量最大化を企図したトップライン投資
    - 19年10月リフィル価格設定
  - リフィルの拡充
  - デバイスのアップグレード

(億円)

	2020年 見込	対前年
自社たばこ製品 売上収益	5,400	-5.1%
調整後営業利益	1,700	-9.2%

### 数量前提

- 総需要減少要因：趨勢減、定価改定影響、規制影響等

	総需要	JT販売数量
たばこ トータル	対前年3%台半ばの減少	-
RMC	対前年5%台前半の減少	対前年約6%の減少
RRP	対前年1%台半ばの増加 (市場占有率：20%台半ば)	30億本台後半

## 財務見込（財務報告ベース）

（億円）

### AOP増減要因

- ・ 堅調なプライシング効果により、財務報告ベースでも対前年で増益
- ・ 不利な為替影響は継続
  - IRR、TRYの通貨下落影響を、RUBを含む複数通貨の上昇が一部相殺
  - ドル・円はネガティブに作用

財務報告ベース	2020年見込	対前年
自社たばこ製品売上収益	13,000	+3.7%
調整後営業利益	3,610	+5.9%

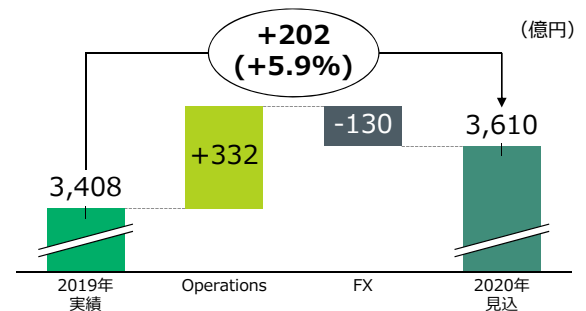
### 為替レート変化率 対前年

	2019年実績	2020年見込	変化率
USD/EUR	0.89	0.89	0.4%高
USD/GBP	0.78	0.78	0.5%高
USD/IRR	104,046	130,000	20.0%安
USD/RUB	64.74	63.00	2.8%高
USD/TRY	5.67	6.20	8.6%安
USD/JPY	109.03	108.00	0.9%高

EUR/IRR換算から、表のUSD/IRRを算出

© Copyright JT 2020

### 調整後営業利益（財務報告ベース）



11

## 財務見込

### 医薬事業

- ・ 海外ロイヤリティ収入の減少および烏居薬品における薬価改定影響により、売上収益・調整後営業利益ともに減少

（億円）

	2020年見込	対前年
売上収益	760	▲125
調整後営業利益	100	▲59

### 加工食品事業

- ・ 売上収益は、注力商品の販売伸長により増収
- ・ 調整後営業利益は、事業モメンタムは堅調も、物流費の上昇および最適生産体制の構築に係る経費が今期に集中することにより減益

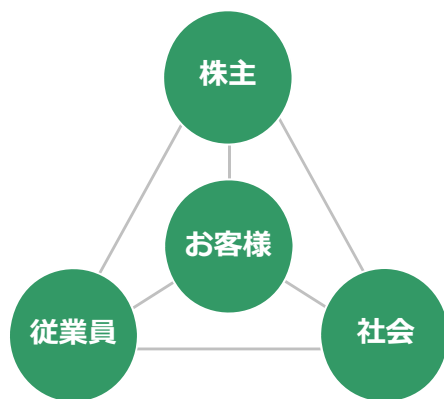
（億円）

	2020年見込	対前年
売上収益	1,600	+14
調整後営業利益	50	▲4

© Copyright JT 2020

12

# Closing remarks



## 2019年度実績：

- 為替一定AOPは、たばこ事業トータルでの成長が医薬事業の減少を上回り増加
- 当期利益は、主に為替の影響を大きく受けたことにより減益

## 2020年度見込：

- 中長期の成長に向けた基盤を強化すべく、高い水準の投資を継続しつつも、前年同水準の為替一定AOPを目指す

## 株主還元：

- 一株当たり配当金（予定）
  - 2019年：154円
  - 2020年：154円

## <用語の定義>

調整後営業利益（AOP）：	調整後営業利益 = 営業利益 + 買収に伴い生じた無形資産に係る償却費 + 調整項目（収益及び費用）* *調整項目（収益及び費用）= のれんの減損損失 ± リストラクチャリング収益及び費用等
為替一定調整後営業利益：	海外たばこ事業における当期の調整後営業利益を前年同期の現地通貨対ドル、円対ドルの為替レートをを用いて換算/算出することにより、為替影響を除いた指標
当期利益：	親会社の所有者に帰属する当期利益
FCF：	FCF = 営業活動CF + 投資活動CFただし以下の項目を除外 • 営業活動CFから、リース取引から生じる減価償却費、利息及び配当金の受取額とその税額影響、リース取引以外から生じる利息の支払額とその税額影響 • 投資活動CFから、事業投資以外に係る、投資の取得による支出、投資の売却及び償還による収入、定期預金の預入による支出、定期預金の払出による収入、その他
Reduced-Risk Products (RRP)：	喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品
自社たばこ製品売上収益： （海外たばこ事業）	物流事業、製造受託等を除き、水たばこ、RRPの売上込み

## <用語の定義>

---

たばこ総需要： (国内たばこ事業)	日本市場全体におけるたばこ製品の本数ベースの市場規模（自社推計） RRPやリトルシガーを含む
RMC： (国内たばこ事業)	Ready made cigarettesの略
RMC総需要： (国内たばこ事業)	日本市場全体における紙巻たばこの本数ベースの市場規模（自社推計） リトルシガーを含み、RRPを含まない
RMC販売数量： (国内たばこ事業)	国内免税販売中国事業の販売分を除く、JT紙巻たばこの販売本数 リトルシガーを含み、RRP等を含まない
RRP販売数量： (国内たばこ事業)	国内免税販売分を除く、JTのRRPの販売本数（1パック当たり紙巻たばこ20本として換算） デバイス/関連アクセサリ等は含まない
リトルシガー： (国内たばこ事業)	たばこ葉を原料とする巻紙を使い、紙巻たばこと同様の形態に巻き上げた製品。 たばこ事業法上「葉巻たばこ」に分類される
自社たばこ製品売上収益： (国内たばこ事業)	輸入たばこ配送手数料収益等を除き、国内免税販売/中国事業/RRP関連の売上を含む
RRP関連売上収益： (国内たばこ事業)	国内たばこ事業における自社たばこ製品売上収益の内訳としての、デバイス/関連アクセサリ等を含む RRPの売上